

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	障がい福祉課	
施策	5	障がい者福祉の充実	評価 責任者	野中 隆	内線 2510
小施策	5-1	障がい者への理解と交流の促進	評価 シート 作成者	相馬 英洋	内線 2511

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
障がいのある人もない人も地域の中で自立した社会生活を送ることができるような条件を整え、共に生きる社会の実現が求められている。		市民一人ひとりが障がいや障がい者に対して十分な理解をし、配慮していくための啓発広報を行うなど、障がい者が地域の一員として安心して生活でき、誰もが暮らしやすいまちづくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		理解と交流が図られている。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合	人	↗	<p>・市障がい者スポーツ大会に参加する高校生等のボランティアが増加した。(平成29年度は97人、平成30年度は118人)</p> <p>・市障がい者芸術文化祭への入場者数は、平成29年度と同じ194人であったが、作品数は増えており(平成29年度は67点、平成30年度は106点)、より多くの作品を見ていただく機会となった。</p>	⇒	<p>・ボランティア活動への関心の高さなどによる増加と思われる、普段接することの少ない、障がい者とふれあう機会となっている。</p> <p>・市芸術文化祭の他に、県文化芸術祭、いわてきららアートコレクション等の発表機会が増え、障がい者の文化活動への参加も積極的になっている。</p>
当初値 (H25) 42.0	R1目標値 51.0	R6目標値 60.0	<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p>		
			<p>・まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合は41.8%となり、前年値とほぼ同じであった。</p> <p>・障がいや障がい者に対する理解を得るための啓発活動が不足していること、障がい者とふれあう機会が少ないことが要因と考えられる。</p>		
指標② 障がい者アンケート調査「障害福祉に関心がある」と答えた市民の割合	%	↗	<p>成果点</p>	⇒	<p>成果の要因分析</p>
当初値 (H25) 63.5	R1目標値 72.0	R6目標値 80.0	<p>問題点</p> <p>⇒</p> <p>問題の要因分析</p>		

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 令和元年度の障がい者福祉計画の中間見直しに伴い、令和元年7月に障がい者各団体と意見交換会を行い、障がい者への理解と交流について意見を聴取した。</p> <p>★ 障がいや障がい者に対する市民の理解が得られるよう、引き続き障害者差別解消法について周知を図るほか、障がい者スポーツ大会、障がい者芸術文化祭等により市民との交流を進める。</p> <p>☆1 相談支援の充実、特に障がい児の相談支援体制を強化し、障がいがあると心配される児童に関する相談窓口とする。</p>	
<p>(障がい者アンケート調査は、平成25年度及び平成29年度に行い、平成30年度は行っていないことから評価できないものである。)</p>	